

# 小動物獣医師数の需給バランスの展望

アニコム損害保険株式会社  
獣医師 河本 光祐

## 目次

### 1. 過去～現在の状況

#### (1) 小動物医療の需給について

- ① 供給から見た供給に関わる係数の状況(獣医師数等の推移)
- ② 需要から見た需要に関わる係数の状況(年間獣医療費等の推移)

#### (2) 需給のタイトさ(獣医師一人当たりの獣医療費)

- ① 獣医師一人当たり獣医療費
- ② 潜在的な需要の状況

### 2. 将来予測

#### (1) 潜在的な需要予測

- ① 将来需要の予測手法および世帯数の推移
- ② 将来飼育率および将来平均飼育頭数の予測
- ③ 将来需要の予測
- ④ その他需給動向への増減圧力について

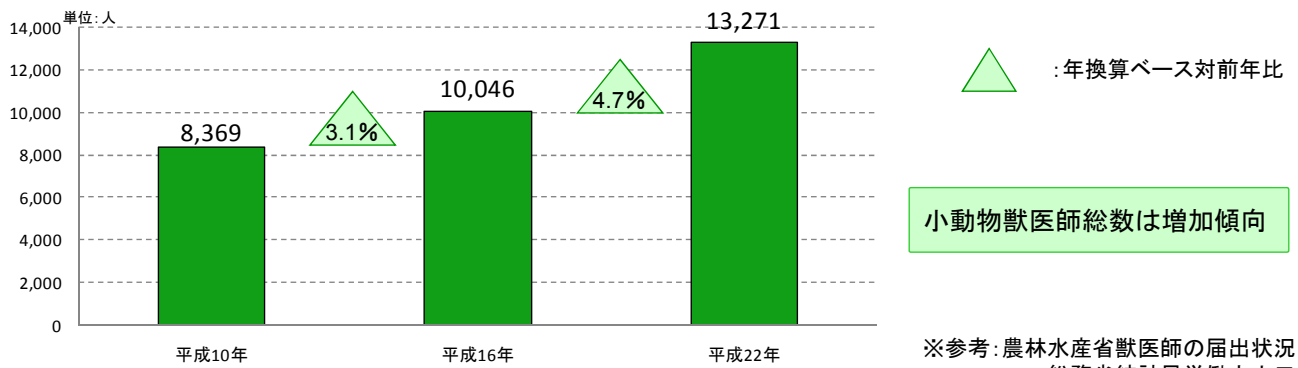
#### (2) 将来必要となる獣医師数の予測

1. 過去～現在の状況

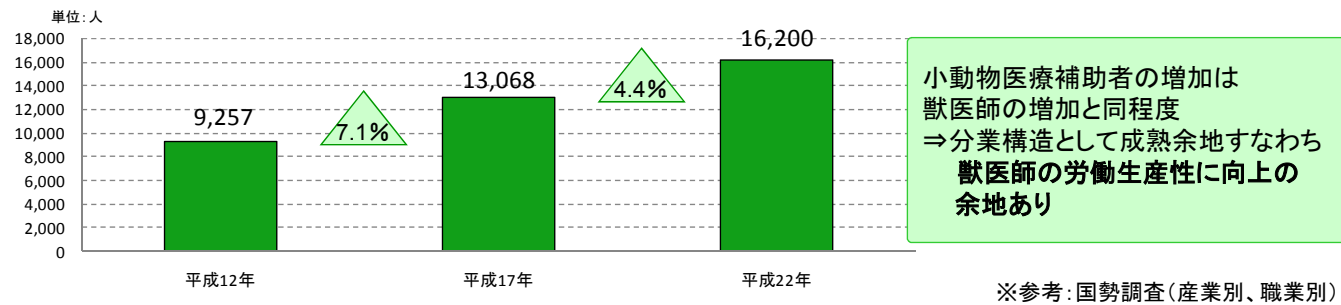
(1) 小動物医療の需給について

① 供給から見た供給に関わる係数の状況

a. 小動物獣医師数の推移



b. 小動物医療補助者数の推移

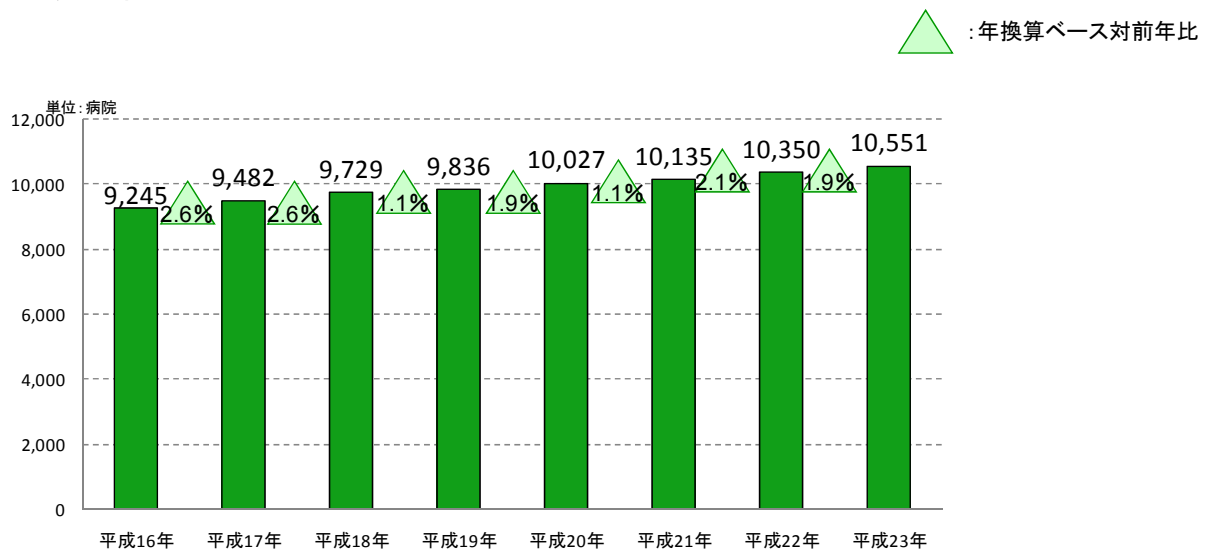


1. 過去～現在の状況

(1) 小動物医療の需給について

① 供給から見た供給に関わる係数の状況

c. 動物病院数の推移



小動物獣医師数に対し、動物病院数の増加は緩やか  
⇒動物病院単位では組織化が進んでいる  
すなわち動物病院単位での労働生産性向上余地は少ない

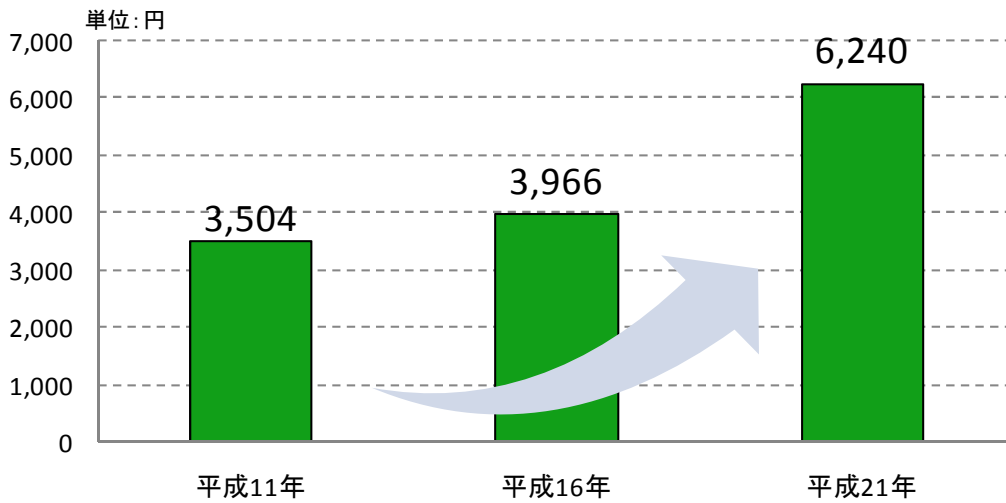
1. 過去～現在の状況

(1) 小動物医療の需給について

② 需要から見た需要に関わる係数の状況

世帯当たりの年間獣医療費の推移

※消費者物価指数にて調整済



世帯当たりの獣医療費は増加傾向  
⇒ 需要超過状態と思われる

※参考: 総務省統計局消費者物価指数、全国消費実態調査

1. 過去～現在の状況

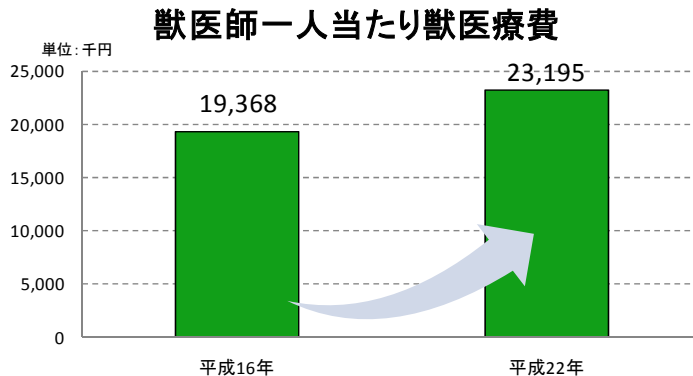
(2) 需給のタイトさ

① 獣医師一人当たり獣医療費

$$\frac{\text{世帯当たりの年間獣医療費 (消費者物価指数調整済)} \times \text{世帯数}}{\text{小動物獣医師数}}$$

※世帯当たりの年間獣医療費

平成22年分として平成21年を代替利用



獣医師一人当たりの獣医療費は6年間、年換算3.1%増が続いている  
⇒ 需要増加の要因は飼育頭数の増加？  
高度な医療サービスの需要増加？

※参考: 全国消費実態調査、総務省統計データ、獣医師届出数推移

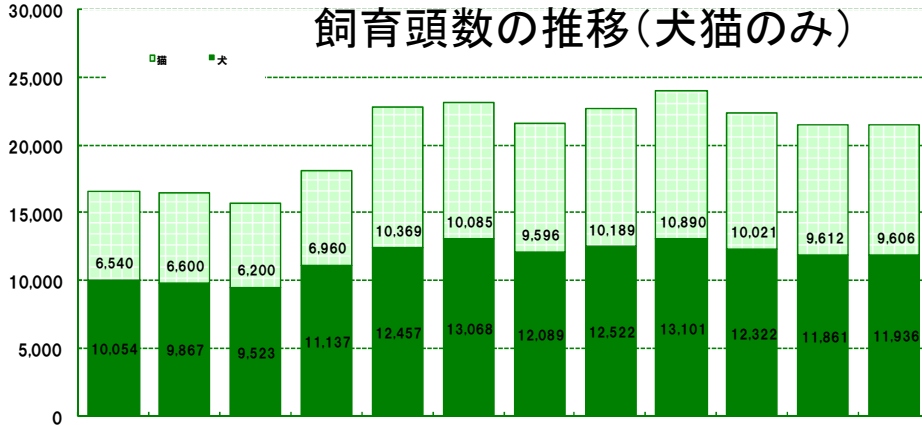
1. 過去～現在の状況

(2) 需給のタイトさ

② 潜在的な需要の状況

潜在的な需要 = 飼育頭数

単位:千頭



平成12年 平成13年 平成14年 平成15年 平成16年 平成17年 平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年

犬猫の飼育頭数は増加していない  
⇒ 需要の増加の要因は飼育頭数の増加によるものではなく、  
高度な医療サービスの需要増加によるもの

参考: 一般社団法人ペットフード協会(2011年)・総務省統計局(2011年)

2. 将来予測

(1) 潜在的な需要予測

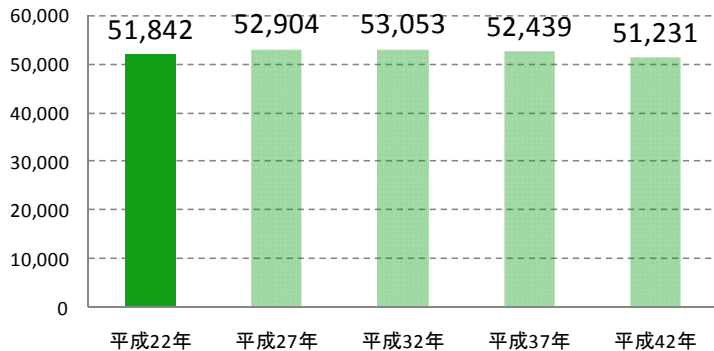
① 将来需要の予測手法および世帯数の推移

将来需要 = 将来飼育頭数

飼育頭数 = 世帯数 × 世帯当たり飼育率 × 平均飼育頭数

世帯数の推移

単位:千世帯



世帯数は平成32年をピークに  
減少に転じる

※参考: 国立社会保障・人口問題研究所

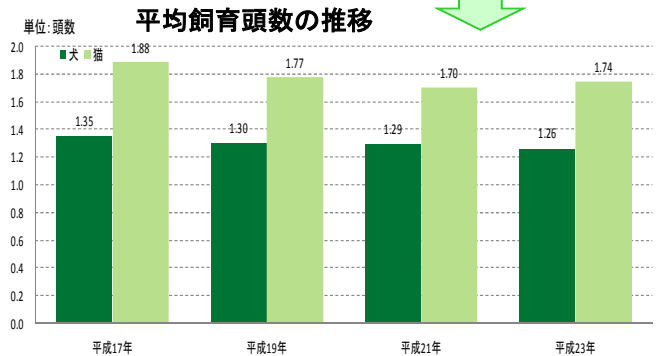
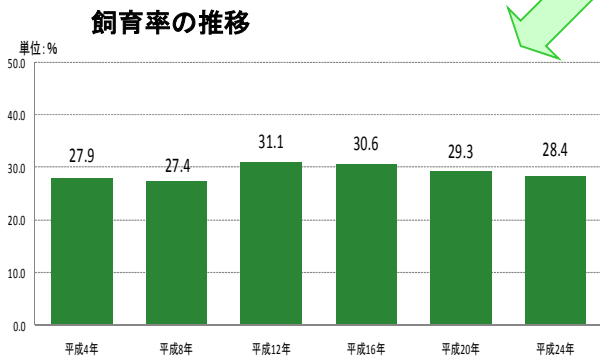
## 2. 将来予測

### (1) 潜在的な需要予測

### ② 将来飼育率および将来平均飼育頭数の予測

**将来需要 = 将来飼育頭数**

**飼育頭数 = 世帯数 × 世帯当たり飼育率 × 平均飼育頭数**



将来飼育率、将来平均飼育頭数の推移はほぼ横ばい

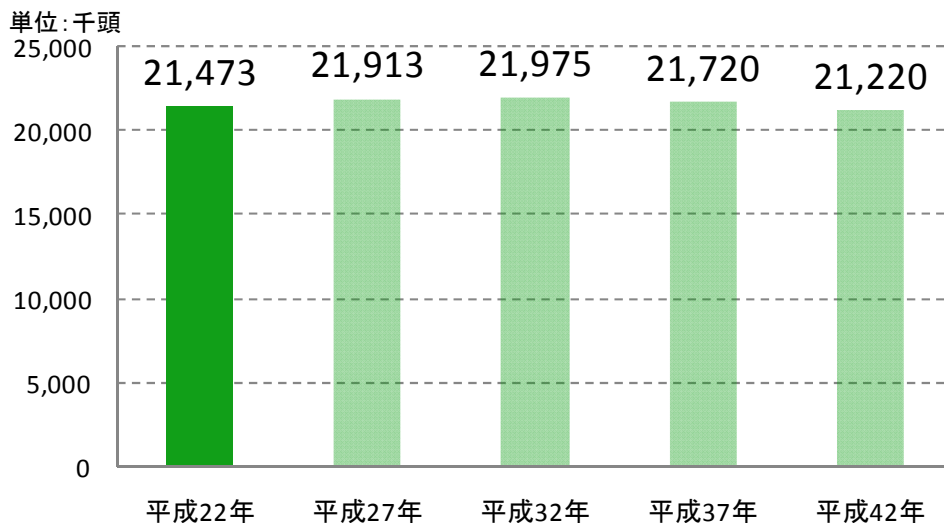
※参考：博報堂生活総合研究所「生活定点」調査、ペットフード協会犬猫飼育率全国調査

## 2. 将来予測

### (1) 潜在的な需要予測

### ③ 将来需要の予測

#### 将来飼育頭数の推移



将来飼育頭数の推移は平成32年をピークに減少に転じる

参考：一般社団法人ペットフード協会(2011年)、総務省統計局(2011年)、国立社会保障・人口問題研究所  
博報堂生活総合研究所「生活定点」調査、ペットフード協会犬猫飼育率全国調査  
をベースにアニコムにて推計

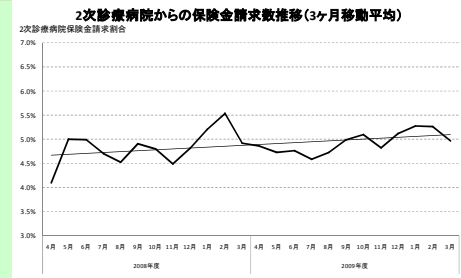
2. 将来予測

(1) 潜在的な需要予測

④ その他需給動向への増減圧力について

供給

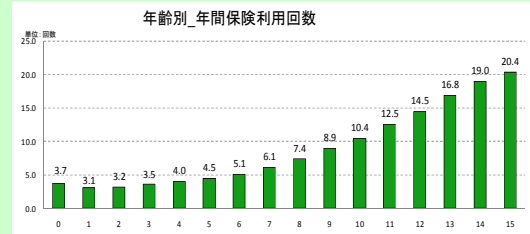
① 高度医療の分業化  
(医療ニーズの多様化)  
に伴う供給力の増加



参考: アニコム保険金支払データから算出

需要

② どうぶつ高齢化に伴う  
診療数の増加



参考: アニコム保険金支払データから算出

③ アジア等における  
獣医療需要の増加

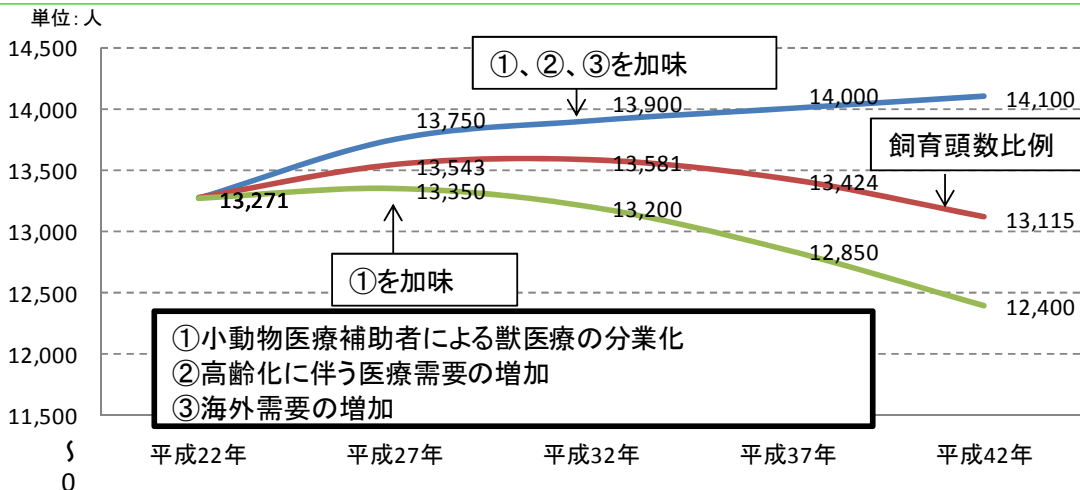
例) シンガポールでは自国で  
獣医療教育を行わず、海外  
から獣医師の供給を得ている

2. 将来予測

(2) 将来必要となる獣医師数の予測

将来必要となる獣医師数の予測

$$\begin{aligned}
 \text{将来需要獣医師数} &= \text{将来需要} \div \text{将来生産性} \\
 &= \frac{\text{将来需要}}{\text{将来生産性}} \\
 &= \frac{\text{将来飼育頭数}}{1 \text{ 獣医師当たり対応可能飼育頭数}}
 \end{aligned}$$



分業化が進めば需要獣医師数は減少する。

一方、動物の高齢化に伴う医療需要の増加や海外需要への対応が進めば、需要獣医師数は増加する。

※将来生産性: 1獣医師供給力について、小動物医療補助者の増加を見込んだ推計値